

科目名 景観計画論
Title Landscape Planning
科目区分 観光政策発展科目

担当教員
非常勤講師 南 賢二（ミナミ ケンジ）

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 3	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

本講義では、民間の調査研究機関において約35年間にわたって取り組んできた地域づくりと景観にかかるる調査・研究・計画の実績を踏まえ、景観原論と景観計画論に関する講義を行う。我が国の都市や地方整備は、戦後70年にわたる取り組みの結果、基盤条件はかなり充実してきた。しかし「量的」な充足は進んだものの、景観等の「質的」な充足度はまだ不十分であり、多数の看板類や電線類が視界を遮り、不統一な形態の建築が建ち並ぶ、欧米と比べて著しく見劣りのする街並み景観や集落景観が国中に広がっている。さらに、多くの人々を迎えるため、美しい景観を誇るべき観光地でさえ見るに堪えない状況が各地に見られる。このような現状を踏まえ、本講義では地方の振興や観光リゾート地域の振興を図るうえで今後不可欠となる、景観の保全整備に関わる取り組み手法等について、原論、手法論、政策論にかかるる学習を進める。

達成目標

景観とは何か、それをどう捉えるかといった原論を理解するとともに、自然景観や土木、建築、街並み、公園緑地、水辺などの様々な領域における景観問題やその背景を理解し、悪化している景観を改善するための多様な手法を学び、まちづくり、地域づくりへの提言や指示ができるレベルの知識の獲得を目指す。

スケジュール

第1回	ガイダンス、講義の目標	講義計画、使用資料、試験・レポートの方法、景観計画の課題等
第2回	景観問題の実態と背景	景観の実態、景観改善が進まない理由
第3回	景観計画の基本概念(1)	景観原論、景観の構造
第4回	" (2)	景観のとらえ方、色相等
第5回	景観計画と景観の演出(1)	景観計画の人材、計画用語
第6回	" (2)	関連用語と手法、植物の役割
第7回	景観計画の考え方(1)	都市の景観計画①
第8回	" (2)	都市の景観計画②
第9回	" (3)	農(山漁村)の景観計画①
第10回	" (4)	農(山漁村)の景観計画②
第11回	" (5)	観光地、リゾート地域の景観計画
第12回	景観計画と地域(1)	住宅地と景観
第13回	" (2)	歴史的環境、道路と景観
第14回	" (3)	河川、公園緑地、広場と景観
第15回	景観に関わる法令と計画	景観法、景観条例、景観計画、講義の総括

教科書・参考文献

教科書 教科書は無し。白黒画像の資料とパワーポイント等のカラー画像を用いて解説を行う。

参考書 無し

授業外での学習

自宅周辺の景観、大学構内や大学周辺の景観、高崎駅周辺の景観等、身近な道路景観等を観察し評価すべき点、問題点、改善方法（誰が何をどのようにすべきか）について自分なりに考えメモをまとめ、講義を聞きながら改良更新する努力を行うこと。

評価方法

中間試験2回（40%）、定期試験（60%）

履修上の注意

問題意識を持った上で受講を期待する

科目名 観光交通論
Title Tourism Transportation
科目区分 観光政策発展科目

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 小熊 仁(オグマ ヒトシ)

E-Mail

配当年次 3	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

観光客の行動は交通によって支えられており、観光にとって交通は切り離すことができない媒体であるということは否定できません。本講義は観光市場全般の基本構造を把握しつつ、観光を支える各交通分野とインフラの現状、および観光交通を取り巻く関連事業の取り組みを学習し、今後の観光の発展に交通が果たす役割について検討することが目標です。

達成目標

- ・観光市場の基本的構造および市場特性について理解すること
- ・観光を支える各交通分野(航空、船舶、鉄道等)とそれを支えるインフラの現状、および事業者の戦略展開について理解すること
- ・観光交通を取り巻く関連事業の取り組みを学習し、今後の観光振興に交通が果たす役割を理解すること

スケジュール

第1回	ガイダンス～観光と観光政策の特徴～
第2回	国内航空輸送とLCCの台頭
第3回	新幹線の整備と今後の展望
第4回	地方鉄道の維持と地域活性化
第5回	道路の整備と道路の観光活用
第6回	高速道路渋滞のメカニズムと解決策
第7回	レンタカーとレンタサイクルの推進
第8回	ツアーバスの安全性と課題
第9回	国際航空輸送の仕組みとオープンスカイ
第10回	クルーズ船と港湾整備の展開
第11回	国際観光政策と査証発給制限の緩和
第12回	航空機の安全性とケータリング
第13回	旅行代理店の構造変化と今後の課題
第14回	ホテル・宿泊業の歴史と現状
第15回	観光まちづくりと地域の魅力度向上に向けて

教科書・参考文献

教科書 とくにありません。PPTによる講義を行います

参考書 講義中に指示します。

授業外での学習

教室での講義が中心となります。普段から観光や交通に関わるニュースや新聞記事に目を通しておいてください

評価方法

講義内課題に対する取り組み状況(30点)、期末試験(70点)を総合して評価します。詳細は、授業開始時に説明します。

履修上の注意

とくにありません。観光、または、交通について関心のある方、これから学習してみようと考える方、どなたでも受講を歓迎します。

科目名 観光経営関連法規
Title Law of Tourism Management
科目区分 観光政策発展科目

担当教員
非常勤講師 井上 知代美 (イノウエ チヨミ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
2

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

旅行会社での実務経験を活かし、現場での事例を踏まえながら観光経営にかかる知識について講義を行っていきます。

各種関連規則の解説や特に重視すべき法の要点の紹介を行います。

観光立国を目指す中で、海外の観光客が安全かつ快適に旅行を楽しむための知識を深めます。

①国内運賃・料金 (JR、国内航空、貸切バス、フェリー、宿泊) の規則について学び、観光経営における実務に対する知識を深めます。

②旅行業界において必要不可欠な「国内観光地理」に関する知識を身に付け、観光の魅力を自身が伝えたくなる意欲を高めます。

達成目標

国内の主要観光資源を知ると共に、国内運賃・料金への理解を深めることで旅行の予約や手配にも生かせる知識を身につけることを目標とします。

また国家試験でもある「旅行業務取扱管理者」(年1回、毎年9月実施)の科目、「国内旅行実務」の合格ラインに到達することを目標とします。

スケジュール

第1回	オリエンテーション (自己紹介、授業の進め方、国家試験について、JR等全体概要)		
第2回	国内主要観光資源① (北海道・東北)		
第3回	国内主要観光資源② (関東・中部)		
第4回	国内主要観光資源③ (関西・中国)		
第5回	国内主要観光資源④ (四国・九州・沖縄)		
第6回	鉄道	JR等営業規則	運賃① 運賃計算の原則
第7回	鉄道	JR等営業規則	運賃② 運賃計算の特例
第8回	鉄道	JR等営業規則	運賃③ 運賃の割引
第9回	鉄道	JR等営業規則	料金① 料金計算の基本
第10回	鉄道	JR等営業規則	料金② 新幹線内乗継、料金計算の特例
第11回	鉄道	JR等営業規則	料金③ 乗継割引、変更・取り消し・払い戻し、団体運賃・料金計算
第12回	国内航空規則		
第13回	貸切バス運賃・料金計算		
第14回	宿泊料金計算、フェリー運賃・料金計算		
第15回	旅券法、出入国管理、検疫法等の紹介		

教科書・参考文献

教科書 「国内運賃・料金」 (2021年度版。JTB総合研究所)

参考書 「科目別速習問題集 (国内旅行業務取扱管理者試験)」 (2021年度版。JTB総合研究所)
「国内観光資源」 (2021年度。JTB総合研究所)

授業外での学習

予習はテキストに目を通す程度で構いません。この科目は復習が大切です。

国家試験に合格するためには、復習が必要不可欠となります。

授業中に学んだテキストの内容を復習の上、問題演習を欠かさずに行ってください。

評価方法

定期試験 (70%) + ミニテスト (30%)

履修上の注意

国家試験の「国内旅行業務取扱管理者」の「国内旅行実務」の科目をカバーした授業となります。
国家試験受験予定者は、「観光旅行関連法規」も併せて受講をすると効果的です。

科目名 観光旅行関連法規

Title Law of Tourism

科目区分 観光政策発展科目

担当教員

担当教員との連絡方法

非常勤講師 井上 知代美 (イノウエ チヨミ)

E-Mail

配当年次
2

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

旅行会社での実務経験を踏まえ、実際の事例に基づきながら旅行業法及びそれに基づく命令、旅行業約款、運送・宿泊約款（国内航空、貸切バス、フェリー、宿泊）についての意味と内容について学習します。難解な条文を詳細に解説し、演習を繰り返しながら学ぶことで観光及び関連業界に関する法律や約款を知り、行業のことを体系的に学ぶことを目的とします。

達成目標

観光旅行関連の法規を身につけることを目標とします。
また国家試験でもある「旅行業務取扱管理者」（年1回、毎年（国内）9月～（総合）10月実施）の科目、「旅行業法」「旅行業約款及び各種約款」の合格ラインに到達することを目標とします。

スケジュール

第1回	オリエンテーション（授業の進め方、国家試験について、旅行業法基礎知識、旅行業法の目的）
第2回	旅行業法① 旅行業等の定義、登録制度
第3回	旅行業法② 営業保証金
第4回	旅行業法③ 旅行業務取扱管理者、料金の掲示・旅行業約款、外務員の証明書携帯、広告・標識の掲示
第5回	旅行業法④ 取引条件の説明・書面の交付、旅程管理
第6回	旅行業法⑤ 禁止行為、事業の廃止等・業務改善命令、登録の取消等、旅行業協会
第7回	旅行業約款① 総則
第8回	旅行業約款② 契約の締結
第9回	旅行業約款③ 契約の変更・解除
第10回	旅行業約款④ 団体・グループ契約、旅程管理
第11回	旅行業約款⑤ 責任、特別補償規程
第12回	旅行業約款⑥ 受注型企画旅行契約
第13回	旅行業約款⑦ 手配旅行契約、旅行相談契約
第14回	各種約款① 国内航空運送約款、フェリー運送約款
第15回	各種約款② 貸切バス運送約款、宿泊約款

教科書・参考文献

教科書 ①「旅行業法及びこれに基づく命令」（2021年度版。JTB総合研究所）
②「旅行業約款、運送・宿泊約款」（2021年度版。JTB総合研究所）

参考書 「科目別速習問題集（国内旅行業務取扱管理者試験）」（2021年度版。JTB総合研究所）

授業外での学習

予習は教科書に目を通す程度で結構です。この科目では復習に時間をかけてください。

国家試験に合格するためには、復習が必要不可欠となります。

授業中に学んだテキストの内容を復習の上、問題演習を欠かさずに行ってください。

評価方法

定期試験（70%）+ミニテスト（30%）

履修上の注意

国家試験である「国内旅行業務取扱管理者」の「旅行業法」「旅行業約款、運送宿泊約款」の2科目をカバーした授業となります。

国家試験受験予定者は、「観光経営関連法規」の授業も併せて受講すると効果的です。

科目名 ユニバーサルデザイン論

Title Universal Design

科目区分 観光政策発展科目

担当教員

担当教員との連絡方法

非常勤講師 石田 寿信 (イシダ トシノブ)

E-Mail

配当年次
3

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
前期

目的

建築設計事務所と研究活動の両方を生かした講義を行う。ユニバーサルデザインとは、「すべての年齢や能力の人にとって、可能な限り最大限に使いやすい製品や環境のデザイン」(The Center for Universal Design,1998)と定義されている。

本講義ではすべての年齢や能力の人という視点に立って、ユニバーサルデザインに関する基本的な知識を学ぶ。また、学んだ知識をもとに、高崎経済大学キャンパス内におけるユニバーサルデザインについて調査・点検し、発表・提案を行う。

達成目標

居住者が安心して安全に暮らすことのできる法制度や社会のあり方、少子化・高齢化社会における居住環境のあり方について理解する。

スケジュール

- 第1回 ガイダンス：授業計画、演習内容
- 第2回 ユニバーサルデザインの基本的な考え方：ユニバーサルデザインとは、ユニバーサルデザインの7原則について
- 第3回 ユニバーサルデザインの歴史と背景：アメリカと日本のとり組み
- 第4回 ユニバーサルデザインと法制度：ハートビル法、交通バリアフリー法、バリアフリー新法について
- 第5回 人の動作と生活環境：人の身体的特徴、バリアフリー、福祉用具について
- 第6回 ユニバーサルデザインと高齢者の住まい：高齢者の住まいにおけるユニバーサルデザインについて
- 第7回 大学キャンパスとユニバーサルデザイン：大学キャンパス内にみられるユニバーサルデザイン
- 第8回 演習1：キャンパス内のユニバーサルデザイン(調査)：高崎経済大学キャンパスを調査する
- 第9回 演習2：キャンパス内のユニバーサルデザイン(点検)：高崎経済大学キャンパスを点検する
- 第10回 演習3：キャンパス内のユニバーサルデザイン(WS)：ワークショップの実施
- 第11回 演習4：キャンパス内のユニバーサルデザイン(提案)：高崎経済大学キャンパス・ユニバーサルデザインガイドラインを提案する
- 第12回 演習5：演習発表・講評
- 第13回 公共施設とユニバーサルデザイン：ユニバーサルデザインと公共建築整備ガイドラインについて
- 第14回 学校とユニバーサルデザイン：学校建築におけるユニバーサルデザインについて
- 第15回 観光とユニバーサルデザイン：伝統的都市にみられるユニバーサルデザインについて

教科書・参考文献

教科書 なし

参考書 「スッキリ! がってん! ユニバーサルデザインの本」古田均著、電気書院、2018年
「情報社会のユニバーサルデザイン」広瀬洋子、関根千佳、放送大学教育振興会、2014年

授業外での学習

生活している都市や公共施設・住まいのノーマライゼーションについて注意深く観察する。

評価方法

グループごとに高崎経済大学キャンパス内におけるユニバーサルデザインについて調査・点検・提案し、レポートの作成・発表を行う。

100点満点のうち、レポートの作成・発表70点、小テスト30点とする。

履修上の注意

参考書をよく読んでおくこと。リアクションペーパーを活用する。

科目名 旅行者行動論
Title Tourist Behavior
科目区分 観光政策発展科目

担当教員
非常勤講師 大野 正人 (オオノ マサヒト)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 3	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

人は様々な動機と誘発要因により観光旅行を行うが、その行動は個々人の属性や旅行目的、旅行形態により異なるものとなる。このため観光地や観光産業はこれらの旅行・観光行動の特性、課題を理解した上で、その二つに応じた地域づくり・商品づくりが求められる。本講義ではこのような消費者の旅行・観光行動の基本を学んだ上で、観光地・観光産業での対応策を理解する。

達成目標

第一に様々な旅行・観光活動の観光旅行者に関する基礎理解、第二に国内観光旅行市場の動向の把握、第三に観光地特有の経営課題となる需要変動や価格変動への対応策、第四に成熟市場となっている国内旅行における顧客管理の理解。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション - スケジュールと達成目標、人間行動・心理学から見た観光行動 -
- 第2回 旅行・観光行動の分類(1) - 活動目的による観光レクリエーション旅行の特性 -
- 第3回 旅行・観光行動の分類(2) - 空間移動パターン(周遊・滞在・往復) -
- 第4回 旅行・観光行動の分類(3) - 旅行期間・移動距離による消費構造の変化 -
- 第5回 観光地・観光産業における旅行者行動の分析と活用 - 誘致圏と流動パターン、旅行先・時期の分散と集中 -
- 第6回 国内観光旅行者の属性と旅行形態 - 誰が、誰と一緒に、どんな旅行をしているのか -
- 第7回 国内観光旅行市場の動向と課題
- 第8回 旅行の動機と誘発要因、阻害要因 - 人は何故、旅行に行くのか -
- 第9回 旅行の需要変動と観光地・観光産業への影響 - 集中と分散(行き先・旅行時期) -
- 第10回 旅行の需要変動と観光地・観光産業への影響 - 時間変動・曜日変動・季節変動 -
- 第11回 需要変動への観光地・観光産業の対応策 - 量と質の変化を組み合わせたターゲットミックス -
- 第12回 旅行消費の特性への対応 - 一次消費と二次消費の組み合わせ方 -
- 第13回 インターネット時代の収益管理 - 様々な価格政策 -
- 第14回 リピーター保持のための顧客管理、販売促進
- 第15回 講義の総括とQ & A

教科書・参考文献

教科書 teamsに配信した資料、及び講義中に紹介する各種観光統計データ等にて行う。

参考書 旅行年報2020 (日本交通公社編) PDF無料ダウンロード可。

観光行動論(原書房、橋本俊哉、2800円)、観光とサービスの心理学 (学文社、前田勇、2500円)

授業外での学習

新聞、テレビ、インターネット等により、個人の旅行行動に関連した情報を積極的に収集すること。

評価方法

授業への参加状況 (10%)、中間レポート・テスト3回 (40%)、期末レポート (50%)

履修上の注意

マーケティングに関する基礎を学習しておくこと。授業ノートをしっかり取ること。不明な点は質問をすること。

教授	担当教員	担当教員との連絡方法
	井門 隆夫 (イカド タカオ)	

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
3	選択	2	前期

目的

「マーケティング」とは、自分以外の世代・性別・国籍・価値観等、立場の違う消費者のニーズ（あつたらいいな）を探り出すゲーム。本講義では、旅行業や宿泊業でマーケティングを担当してきた教員の経験を活かし、市場を観察・分析し、新しい商品を創造して商圏を拡大する「マーケティング」の一連の取り組みについて幅広く観光の事例をもとに紹介する。授業は「市場分析」「事例研究」「商品企画」を順に追い、最終的に新商品・新事業を企画してもらう。論理的に考えを深堀りする「ロジカル・シンキング」、イノベーションを導くための「クリティカル・シンキング（批判的思考）」、販売に工夫を凝らすための「ラテラル・シンキング（水平思考）」、臨機応変に時代に対応していくための「デザイン思考」等、様々な思考法も必要になってくる。こうした思考法を取り入れながら、これまでにない事業や商品を企画できるようになることを授業目標とする。

達成目標

- ①課題発見力を養う：様々なデータを分析し、現代マーケットの課題を発見できるようになる。
- ②企画発想力を養う：多様な思考法を活用し、これまでにない商品を企画できる発想力を養う。
- ③数字に慣れる：マーケティングでも数字の活用は必須。実例に触れることで、数字アレルギーをなくす。

スケジュール

第1回	ガイダンス	~講義の進め方と評価方法、マーケティングの思考法（洞察とデータ分析）
第2回	マーケティングの基礎	~「あつたらいいな」を創造する（新ビジネス・新商品を考える楽しさ）
第3回	マーケティングの手法	~市場を分析してみる（データのありかと分析事例）
第4回	市場分析①	~「観光市場は今後どうなっていくか」 年代別観光客数・外国人客数の将来予測
第5回	市場分析②	~「観光行動は誰と一緒にしているか」 旅行形態別観光行動の推移と将来予測
第6回	市場分析③	~「観光行動はいつ行っているか」 季節・月別観光行動の推移と将来予測
第7回	市場分析④	~「観光行動はどこで行っているか」 着地別発地分析と商圏拡大提案
第8回	事例研究①	~ファミリー市場の事例（長野県白馬村、など）
第9回	事例研究②	~訪日外国人市場の事例（熊本県阿蘇、など）
第10回	事例研究③	~様々な市場とマーケティングランスラー（千葉県勝浦市、など）
第11回	事例研究④	~様々な地域ビジネス（島根県海士町、など）
第12回	商品企画①	~新事業・新商品を企画しよう（様々な新商品の事例）
第13回	商品企画②	~新事業・新商品を企画しよう（データ収集）
第14回	商品企画③	~新事業・新商品を企画しよう（個人ワーク）
第15回	ふりかえりとまとめ	~観光で地方創生を図るには（マーケティングの必要性）

教科書・参考文献

教科書 講義資料は毎回スクリーンに投影。講義終了後ポータルに保存する。

参考書 授業中に隨時紹介する。

授業外での学習

授業中に紹介した「データ」のありかを自らサイトで調べ、ブックマークしておくこと。授業外学修の指示があつた場合は、指示内容について考えてくること。日常生活自体がマーケティングのトレーニングの場なので、ショッピングセンター等のリアルの場でも常にマーケティングを意識すること。

評価方法

毎回のワークへの参加（講義中に出される問い合わせに対する自分の考えをアプリで入力または用紙に記入して講義終了後提出） 60%
最終レポート（市場をイノベートする新事業・新商品企画） 40%

履修上の注意

授業は欠席しないことが前提ですが、欠席（公欠等を含む）の場合は、必ず欠席した回の授業資料をポータルで確認し、次回の授業に臨むこと。ノートPC持参が望ましい回がある（第13~14回）。

科目名 ツアープランニング論

Title Tour Planning

科目区分 観光政策発展科目

担当教員

担当教員との連絡方法

非常勤講師 鍋倉 咲希 (ナベクラ サキ)

E-Mail

配当年次
3

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
前期

目的

「ツアーピー」と聞いて思い浮かべるのはどのような光景だろうか。大人数でバスに乗り、決められたスケジュールで観光地をまわる人々の姿だろうか。それとも飛行機とホテル予約のみのプランに参加し、週末に海外旅行をする個人旅行者の姿だろうか。本授業はこうしたツアーピーの「型」がいかに作りだされ、どのように観光者に受容されているのかを、観光社会学の視点から学ぶ。授業では(1)団体旅行、(2)個人旅行、(3)新しい団体旅行という3つのテーマを設定し、ツアーピーの「型」 = 「ツアーピー性」を読みとく。とくに(1)(2)では、パッケージツアーガーが生みだされる社会背景や、ツアーピーが協働的に生産される過程を理解する。(3)では、必ずしも「ツアーピー」に分類されない今日の観光商品が「ツアーピー性」をもち、新しい団体旅行の形を生みだしている状況について考える。各回では該当する書籍の一部や論文などを読んだうえで、講義とディスカッションを行う。

達成目標

- ・ツアープランニングによる正負の社会的インパクトについて説明することができる。
- ・ツアーピーの生産や消費、演出の方法について観光社会学的な視点から理解する。

スケジュール

第1回	オリエンテーション
第2回	団体旅行の歴史（修学旅行・社員旅行・新婚旅行）
第3回	団体旅行の生産（パッケージツアーピーの生産過程）
第4回	団体旅行とイメージ（旅行会社が作りだす観光地イメージ）
第5回	団体旅行と演出（ツアーピー参加者による一体感の醸成）
第6回	個人旅行の台頭（バックパッキング）
第7回	個人旅行とツアーピー（スケルトン・ツアーピー）
第8回	ガイドの役割（バスガイドからインタークリターまで）
第9回	旅行業界の現在（新型コロナウイルスとツアーピー）
第10回	新しい団体旅行①（ボランティアツアーピー）
第11回	新しい団体旅行②（ピースボート、タビイク）
第12回	「集合」する個人旅行者①（「オルタナティブ・マス・ツーリズム」）
第13回	「集合」する個人旅行者②（ソーシャルメディアと集合性）
第14回	観光が生みだすつながり（ゲストハウス）
第15回	観光における「ツアーピー性」とはなにか

教科書・参考文献

教科書 書籍・論文などは授業中に指定・配布する。

参考書 授業中に適宜紹介する。

授業外での学習

- ・授業でディスカッションするテーマについて、指定した書籍・論文を読み予習し、自分の意見を述べられるようにしておくこと。
- ・授業で学んだ視点を自分の日常生活にも応用して考えるようにすること。

評価方法

期末レポート：40% 平常点：60%

履修上の注意

- ・本講義は反転授業（フリップド・クラスルーム）を採用する。授業は受講者同士や全体での議論が中心となるため、事後課題（小レポート）への取組みと、授業内での積極的な議論への参加が求められる。
- ・観光マーケティング論の受講、もしくは観光マーケティングに関する知識を関連文献を通じて学習することが望ましい。

科目名 ホスピタリティ論

Title Study on Hospitality

科目区分 観光政策発展科目

担当教員

担当教員との連絡方法

非常勤講師 奥名 祐子（オクナ ユウコ）

E-Mail

配当年次
3

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
前期

目的

本講は、講師のホテル業経験やホスピタリティ産業に関するリサーチやコンサルティング経験をもとに、ホスピタリティ産業を就職先として目指したり、学修意欲があり興味を持つ方向けに、ホスピタリティの基本概念を学んだ後、いくつかのケース・スタディを扱います。受講生は自らホスピタリティに関する観察調査を行い、受講生による発表を求めます。表象的なホスピタリティを観察するだけではなく、企業の経営戦略も包括的に考察していただきますので経営への関心が求められます。

達成目標

1. ケース・スタディを通じて、ホスピタリティの本質とサービス産業の現状や課題が理解できる。
2. ホスピタリティ産業志望者に求められる基礎的な知識を習得することができる。
3. 授業の一環で行う観察調査において洞察力を養い、課題を見出す力を養うことができる。

スケジュール

第1回	ホスピタリティの誕生と系譜、ホスピタリティの概念
第2回	ホスピタリティの実践
第3回	ホスピタリティ産業の分類
第4回	ホスピタリティと顧客満足度
第5回	ホスピタリティと顧客関係管理
第6回	ホスピタリティと従業員満足①
第7回	ホスピタリティと従業員満足②
第8回	ホスピタリティと組織
第9回	ケース・スタディ① 様々なホスピタリティ産業からケースを紹介します。
第10回	ケース・スタディ② 様々なホスピタリティ産業からケースを紹介します。
第11回	ケース・スタディ③ 様々なホスピタリティ産業からケースを紹介します。
第12回	ゲスト講師（予定）
第13回	リサーチの発表（グループワーク）
第14回	リサーチの発表（全体発表）
第15回	ふりかえりとまとめ

教科書・参考文献

教科書 特になし。毎回テーマに応じたプリントを配布、パワーポイントにて資料、画像、動画を映写します。

参考書 授業中に適宜紹介します。

授業外での学習

前週に翌週の受講に必要な情報収集や資料収集の内容を連絡するので、準備して授業に臨んでください。
また、授業の最初に「前週のポイント」を質問するので復習しておいてください。

評価方法

1. 毎回のワークシート 70%
2. 課題レポート 30%

履修上の注意

インターネット・新聞・雑誌・書籍等を通して、社会や観光産業の動向に強い関心を持って臨むことを条件とします。

科目名 イベント観光論

Title Event Tourism

科目区分 観光政策発展科目

担当教員

担当教員との連絡方法

非常勤講師 大迫 道治 (オオサコ ミチハル)

E-Mail

配当年次
3

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

観光まちづくりコンサルタントの実務経験を活かして、実務に必要な基礎知識と技術・手法について講義します。観光誘客を目的とするイベントは、施設整備等のハード事業に比べて低予算で実現可能なこともあります。全国各地で実施されています。イベントは「感動」や「交流」を生み出す場として、また観光地の知名度を向上させる役割も含めて、観光地づくりには欠かせない要素となっていますが、効果検証が不十分なまま継続開催を繰り返し、いつの間にかマンネリ化しているイベントが少なくありません。本講義では、イベントの企画立案及び実施運営に関する基礎的な理論を学んだ上で、実際の現場での取組を紹介します。イベント主催者側の実務のための理論と実践から、観光振興に資するイベントを効果的に実施するための手法を学んでいきます。

達成目標

- ①イベントの定義や分類、観光振興に果たす役割等、イベントの基礎的な知識を理解する。
- ②イベント企画を通じて、観光・集客事業に共通する企画の構成やその要点を理解する。
- ③イベント事例の取組みから、継続実施によって事業の費用対効果を高める手法を理解する。

スケジュール

第1回	ガイダンス	講義の概要、使用資料の説明、試験・レポートの説明、イベント観光の定義
第2回	イベント観光の概況	観光市場におけるイベントの位置づけ、優良イベントの実施状況
第3回	イベントの分類	イベントの種類、形態、活用する地域資源、開催目的による分類について
第4回	イベントによる効果	期待される効果の内容、効果測定手法、来場者予測方法、ロングランイベントの展開
第5回	イベントの企画・計画	企画立案に必要な調査、分析手法と基本計画づくり
第6回	イベントの実施運営(1)	イベントの実施運営体制
第7回	イベントの広報・宣伝	情報媒体を活用した集客方法について
第8回	イベントの実施運営(2)	危機管理の考え方
第9回	イベント事例(1)	スポーツイベント、参加型スポーツイベント、集客スポーツイベント
第10回	イベント事例(2)	グルメイベント、B1グランプリ、ご当地グルメイベント等
第11回	イベント事例(3)	フラワーイベント、施設型フラワーイベント、回遊型フラワーイベント等
第12回	イベント事例(4)	地域散策型イベント、観光地の回遊を促進する散策イベント
第13回	イベント事例(5)	夜景・アートイベント
第14回	イベント事例(6)	歴史文化体験イベント
第15回	講義の総括	

教科書・参考文献

教科書 講義時に資料を配布します。

参考書 日本イベント産業振興協会『イベント情報ファイル』、日本イベント産業振興協会『イベント用語辞典』

授業外での学習

出身地や住んでいる地域で開催されているイベントを見学し、講義の内容に基づき、主催者の立場に立ってイベントの成功要因や課題の分析をしてください。

評価方法

講義の際に実施する小テストが30%、期末レポートが70%として評価します。

履修上の注意

特にありません。

科目名 観光情報論
Title Tourism Information
科目区分 観光政策発展科目

担当教員
非常勤講師 大野 正人 (オオノ マサヒト)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
前期

目的

人は様々な情報により旅行動機が誘発され、さらに旅行準備から旅行中に至る各段階で観光情報をもとに旅行する。そのため観光地と観光産業は様々な手法で観光情報を発信して誘客と案内を行っている。さらにインターネットが発達した現代では旅行者自身が様々なプラットフォームで観光情報を発信している。このような情報氾濫時代に観光地・観光産業はどのような情報発信を行うべきか、そして旅行者が発信する観光情報をどのようにプロモーション活動に活用するべきかを理解する。

達成目標

第一に、観光情報の概念と観光における役割について理解する。第二に、インターネットの発達による現代の観光情報の現状と課題、特に誘客のための評価情報について理解する。第三に、これからの観光地・観光産業の情報発信の在り方について、温泉観光地の事例、訪日外国人への情報発信を中心に理解する。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーションと旅行・観光において必要な情報の整理
 - ・旅行・観光行動の発生プロセスと観光情報が果たす役割
- 第2回 観光情報の分類
 - ・必要な時期と内容、評価情報 / 宣伝情報、静態情報 / 動態情報
- 第3回 観光情報の発信主体とその目的、信頼性
 - ・観光地、観光産業(広告宣伝)、第三者(広報活動)、旅行者自身
- 第4回 観光情報を伝える様々なメディアの特性
 - ・マスマディア、紙媒体、インターネット、案内サイン、地図情報
- 第5回 インターネットによる観光情報発信の変化と観光地・観光産業への影響
 - ・観光情報と予約・販売情報の一体化。一般消費者が発信する情報の氾濫
- 第6回 旅行・観光を誘発し、行き先を決めるための情報
 - ・イメージ情報(ポスター、旅番組、口寄せ誘致、Youtuber招待)、評価情報(クチコミサイト等)
- 第7回 予約や手配、具体的な行動を誘発するための情報
 - ・交通と宿泊施設、観光施設、料飲施設、買物とグルメ
- 第8回 旅行中に必要となる観光情報
 - ・案内サイン、地図～モバイルナビとカーナビ、気象情報と交通情報
- 第9回 これからインターネットメディアの活用
 - ・観光活動の把握とその活用事例 移動トレース情報
- 第10回 温泉観光地におけるこれからの情報発信
 - ・長期ビジョンに基づく観光まちづくりの推進と情報発信
 - ・訪日旅行客の現状と将来、訪日外国人の旅行動機と情報入手手段
- 第11回 情報発信におけるDMOの役割
- 第12回 訪日外国人誘致と受け入れのための情報発信
 - ・誘客情報と現地での文化交流のための情報
- 第13回 非対面サービスの増加と情報発信
- 第14回 観光地のリスク管理
 - ・災害・テロ・疫病等における旅行者の安全確保と風評被害対策
- 第15回 講義の総括とQ&A

教科書・参考文献

教科書 teamsにて配信した配布をもとに行う。

参考書 旅行年報2020 ((公財)日本交通公社編) 2,000円 (PDF無料ダウンロード可)
美しい日本 - 旅の風景 - ((公財)日本交通公社) 3,250円

授業外での学習

観光ガイドブックや旅行商品パンフレット、各種旅行情報ポータルサイトや口コミサイトを閲覧すること

評価方法

出席と授業への意欲 (10%)、小レポート・テスト2回 (40%)、及び期末レポート(50%)

履修上の注意

自分の過去の旅行や計画している旅行で、どのような観光情報を活用しているかについて、考えておくこと。

科目名 アメリカの文化と観光
Title Culture and Tourism in America
科目区分 観光政策発展科目

担当教員
非常勤講師 吉村 竜 (ヨシムラ リュウ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 3	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

北アメリカ、及び中・南米の文化と観光について授業では紹介する。16世紀のスペイン人征服以前に、アメリカ大陸には先住民であるインディオの人々が暮らしており、中南米にはマヤ、アステカ、インカなどの文明が花開いていた。そしてヨーロッパ諸国による統治を経て、彼らの生活や文化は様々な国とのそれと混じり合うことで変化してきた。現在では、北アメリカはもちろん、中米のメキシコ、キューバ、南米のペルー、ボリビア、エクアドル、アルゼンチン、ブラジルなどは、日本人観光客にとって人気の場所で、文化的、自然的な観光地も多い地域である。そのようなアメリカ大陸の歴史的概要などを理解したうえで、各地域の特徴的な文化や生活を提示する。そのうえで、地域の観光事情の事例をいくつか取り上げて、現代的なアメリカ大陸の問題や変化などを理解し、自分なりの意見を培うことを目指す。

達成目標

アメリカ大陸の歴史的概要を理解したうえで、現代の観光事情を説明できるようになること。さらに、アメリカ大陸各地の観光をめぐる諸問題に対して、自分なりの意見を持つようになること。

スケジュール

- | | |
|------|------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス：アメリカ大陸の観光名所 |
| 第2回 | アメリカ大陸の歴史と文化 |
| 第3回 | 北米の歴史と文化 |
| 第4回 | 北米の観光事情 リゾート、インディオによる観光開発 |
| 第5回 | 中米の歴史と文化 |
| 第6回 | 中米の観光事情 カリブ海域社会とマスツーリズム |
| 第7回 | 中間テスト |
| 第8回 | 南米（ペルー）の観光 神秘観光と浮き島観光 |
| 第9回 | 南米（ペルー）の食文化 アルパカステーキ |
| 第10回 | 南米（ボリビア）の文化と観光 ウユニ塩湖 |
| 第11回 | 南米（ブラジル）の自然と観光 ルーラルツーリズム |
| 第12回 | 南米（ブラジル）の文化 アマゾン川ツアーカラ市場へ |
| 第13回 | 南米（ブラジル）の都市観光 コルコバードの丘もスラム街も |
| 第14回 | 南米（ブラジル）の移民文化 食と祭り |
| 第15回 | 講義の総括 |

教科書・参考文献

教科書 毎回資料を配布する。

参考書 授業中に適宜紹介する。

授業外での学習

毎回授業で配布する資料は、あくまでもアメリカ大陸の観光事情の一部分です。そのため、授業後に、インターネットや書籍などでその他の観光地や事例について調べておいてください。

評価方法

授業でおこなう期末レポート、中間テスト、リアクションペーパーによる総合評価をおこなう。
割合は期末レポート(40%)、中間テスト(40%)、リアクションペーパー(20%)とする。

履修上の注意

授業で紹介するアメリカ大陸の観光事情に対する考え方や見方を、身近な事例や現代的な観光事情などに応用する訓練をすること。それは、現代的な問題について自分なりの意見が持てるようになるためのもので、期末試験では、その思考訓練の成果を問つような問題を用意する予定。

科目名 アジアの文化と観光
Title Culture and Tourism in Asia
科目区分 観光政策発展科目

教授 小牧 幸代 (コマキ サチヨ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

この講義では、アジア（東アジア、東南アジア、南アジア、中央アジア、西アジア、北アフリカ）の文化と観光を、民族、言語、歴史、宗教、儀礼伝承、食文化、服飾文化、建築物、自然環境などに注目しながら学んでいく。政治や経済は一国単位で考えるのが主流だが、民族、言語、宗教、文化、自然は数力国で構成された地域で共有されていることが多いため、アジアという地域単位の研究視角は、大雑把なようでいて、実は示唆に富んでいる。アジアという地域に共有された文化とはどのようなものなのか、またそうした文化的土壤をもつ地域での観光にはどのようなものがあり、またどのような可能性が秘められているのか。可能な限り、現地調査に基づいた視点からのアプローチを試みる。

達成目標

新聞やテレビで報道されるアジア情勢のなかには、欧米中心のアジア観が反映されているものも少なくない。日本人にとってアジアは、精神的・地理的に近いようでいて、実際には異文化であるため、知識と情報の不十分さが、欧米経由のそれらで補われるのである。この講義の達成目標は、アジアに関する知識を深め、日々報道されるアジア情報についてのメディアリテラシーを高めることにある。

スケジュール

第1回	ガイダンス～アジアの地理的・歴史的概観
第2回	ユネスコ世界遺産とアジアの観光地～世界遺産条約の理念、世界遺産の分布状況
第3回	世界遺産とナショナル・アイデンティティ～アフガニスタンの仏教遺跡とインドのイスラーム建築
第4回	食文化と観光①～グローバル化／ローカル化するエスニック料理、無形文化遺産の和食とキムジヤン
第5回	食文化と観光②～インド世界の淨・不淨観：右手と左手、男性と女性、カースト、食材・食器と調理法
第6回	観光開発と宗教～インドの女神崇拜と聖地創造、近代インドにおける女性の地位
第7回	東南アジアのリゾート観光①～資料映像「ザ・ビーチ」鑑賞
第8回	東南アジアのリゾート観光②～団体旅行と個人旅行、観光の論理と生活の論理
第9回	娯楽・教育・観光①～博覧会と遊園地、ヨーロッパと日本の事例
第10回	娯楽・教育・観光②～博物館とテーマパークと日本の外国村・時代村の事例
第11回	娯楽・教育・観光③～テーマパークとナショナリズム。自文化／他文化表象の政治性
第12回	イスラーム世界と観光①～聖地への巡礼と参詣、モスク、聖者廟、聖遺物廟、世界遺産
第13回	イスラーム世界と観光②～世界三大料理と文字文化圏、グローバル化とハラール認証
第14回	身近な場所の異文化と観光～エスニックタウンにおける人びとの暮らし
第15回	まとめ～観光を通じた文化交流を考える。いま、私たちに準備できること

教科書・参考文献

教科書 毎回、資料を配付する。

参考書 授業時に指示する。

授業外での学習

毎回配布する資料を授業後にも読むなどして知識の定着を図るとともに、その知識を活用し、常に身近な出来事や現象に関心をもつよう心がけること。そのなかで生まれた疑問は、授業中や授業の前後に、遠慮なく教員にぶつけてみてください。

評価方法

レポート(30%)～3回実施。1回10点満点。内容に応じて10段階評価する。定期試験(70%)～試験範囲は配布資料。

履修上の注意

授業には、1回目から出席すること。

科目名 オセアニアの文化と観光
Title Culture and Tourism in Oceania
科目区分 観光政策発展科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 玉井 昇(タマイノボル)

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
3	選択	2	前期

目的

オセアニア地域での生活や留学経験および非営利団体職員として携わった現地との国際交流活動の実務経験等も活かし、当該地域の文化と観光について取り上げます。そもそも、オセアニアは他地域に比べ、日本ではあまり学習機会に恵まれているとは言い難い状況です。しかし、他方では、オーストラリアやニュージーランドはもちろんのこと、ハワイやグアム、タヒチやニューカレドニアなど、オセアニアは日本人観光客にとって人気の渡航地域です。手始めに、そんなオセアニアの一般事情を理解したうえで、この地域の特徴的な風土や文化を学びます。そのうえで、地域の経済開発と観光事情についても理解を深め、今後のあり方について出来れば政策的にも考えていく予定です。

達成目標

- ①オセアニア地域の歴史や地理的概要を説明できる。
- ②オセアニア地域内の個別文化と社会、および観光事情の概要を説明できる。
- ③オセアニア地域における文化と観光的課題について説明できる。

スケジュール

第1回	ガイダンス - 受講の心得、講義内容の説明、オセアニア研究の意義と目的
第2回	オセアニア地域の概要
第3回	「オーストラレイジア」の歴史
第4回	オーストラリア連邦の歴史
第5回	オーストラリアの文化と社会
第6回	オーストラリアの観光事情
第7回	ニュージーランドの歴史
第8回	ニュージーランドの文化と社会
第9回	ニュージーランドの観光事情
第10回	メラネシア、ポリネシア、ミクロネシアの島々
第11回	メラネシア、ポリネシア、ミクロネシアの文化と観光
第12回	オセアニアにおけるエスニシティ問題と多文化主義
第13回	オセアニアにおける経済開発と伝統文化の相克と調和
第14回	オセアニアと世界、日本との関係、観光文化の視座
第15回	まとめ - 21世紀におけるオセアニア地域の展望、定期試験に向けて

教科書・参考文献

教科書 なし(プリント配付)

参考書 山本真鳥『オセアニア史』山川出版社、竹田いさみ『オーストラリア入門』東京大学出版会、青柳まち子『エコツーリズムを知るための63章』明石書店、印東道子『ミクロネシアを知るための60章』明石書店など

授業外での学習

講義ノート(配布プリント)を参考に、次回の授業内容に目を通し、専門用語の意味等を調べておくこと。
毎回授業の初めに、前回の内容に関するランダム指名質問をする予定なので、十分復習をしておくこと。

評価方法

授業内課題(30%)、期末試験(70%)による総合評価を行い、評価の基準は以下の通りです。
S(80点以上で特に成績優秀な者)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)
上記の到達目標の達成状況により評価する。

履修上の注意

歴史、地理、文化などのオセアニアの一般事情を理解することに加え、地域の観光や社会問題を政策的にも考えてみたい人に適しています。受講生の人数やニーズに応じて、可能であれば、課題解決型のアクティブラーニングも導入していく予定です。

科目名 観光プロモーション論

Title Tourism Promotion

科目区分 観光政策発展科目

担当教員

教授 丸山 奈穂 (マルヤマ ナホ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
3

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
前期

目的

Promotion and publicity are critical parts of tourism development because they may directly relate to a destination's "identity." This course will cover the basic concepts of tourism publicity and promotion. In the first half of the semester, we will explore various use of "image" in tourism promotion and ways in which particular image influences tourist' behavior and creation of local identity. The second half of the semester, we will complete two projects to promote Takasaki and other areas. このクラスでは観光プロモーションの基礎について学ぶ。前半では、観光プロモーションで使われるイメージとそのイメージがもたらす影響について学び、後半には、プロジェクトを行う。

達成目標

To understand the basic process of tourism promotion. To understand various medium of tourism promotion . To understand social and cultural influence of image on tourism destination and tourists behaviors このクラスの達成目標は、1. 観光プロモーションの基礎を理解し、2. 観光プロモーションに使われる様々なメディアを理解し、3. 観光プロモーションと社会や文化の関係について学ぶ、の3点である。

スケジュール

第1回	Orientation to the course オリエンテーション
第2回	What is tourism promotion? 観光プロモーションとは何か?
第3回	The 'positive' destination image 観光地の「良い」イメージとは?
第4回	Tourism and social value 観光と社会
第5回	Tourism and stereo-types 観光とステレオタイプ
第6回	Mid-term 中間テスト
第7回	Use of negative image in tourism promotion 1 “自虐的”な観光プロモーション 1
第8回	Use of negative image in tourism promotion 2 “自虐的”な観光プロモーション 2
第9回	Use of negative image in tourism promotion 3 “自虐的”な観光プロモーション 3
第10回	Gender and tourism promotion 1 ジェンダーと観光プロモーション 1
第11回	Gender and tourism promotion 2 ジェンダーと観光プロモーション 2
第12回	Promotion and research 1 プロモーションのための調査方法 1
第13回	Promotion and research 2 プロモーションのための調査方法 2
第14回	Promotion and research 3 プロモーションのための調査方法 3
第15回	Promotion and research 4 プロモーションのための調査方法 4

教科書・参考文献

教科書 特になし

参考書

授業外での学習

授業ノートを見直し、理解が不十分な場合は参考図書などで補うこと
また、教員から指示がある場合は、参考資料を事前に読み、専門用語等を確認しておくこと

評価方法

中間テスト 20% / 課題 1 35%
課題 2 30 % / 授業への参加 15%

履修上の注意

Students are expected to read the hand-outs and other materials before the class and actively participate in the class discussion.

科目名 産業観光論
Title Industrial Tourism
科目区分 観光政策発展科目

担当教員
非常勤講師 大野 正人 (オオノ マサヒト)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 3	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

産業観光は近代以降の工場や交通・治水施設等の社会インフラ等を対象とした観光である。これらは観光資源のなかでは人文資源に属しているが、従来の自然資源や歴史人文資源に乏しい地域における観光振興のための資源として注目されている。本講義では様々な産業観光資源の特性と観光への活用方法を、事例をもとに学ぶとともに、今後、事業化するにあたって重要な方法論について学ぶ。

達成目標

第一に、産業観光の概念と旅行・観光活動における位置付け、地域や企業の目的等の事業の在り方について理解する。第二に、産業観光の事業計画について受入体制や事業スキームの在り方を理解する。第三に、具体的な事例研究により事業化の方法論を理解する。

スケジュール

- 第1回 オリエンテーション、産業観光の概念と資源の分類
· 定義と概要、発展の歴史
- 第2回 産業観光の概念と分類
· 産業観光資源の位置付けと特性、ターゲットとなる客層と利用形態
- 第3回 産業観光の分類とその事例(1)
· 鉱山、工場遺産、稼働中の工場と製品、交通・運輸施設
- 第4回 産業観光の分類とその事例(2)
· 社会インフラ、土木遺産、その他の公共施設遺産
- 第5回 産業観光の分類とその事例(3)
· 類似する観光資源（廃墟観光、災害や戦争などの負の遺産）
- 第6回 産業観光のマーケティング
· 対象客層と利用動向、観光旅行市場におけるポジション
- 第7回 事業者により異なる産業観光の目的
· 地域活性化、製品の販売促進、企業のCSRとイメージアップ
- 第8回 産業観光推進のための課題
· 利活用と本来用途、保存と活用の調整、事業開始時の財源と開始後の財源
- 第9回 事業化への取り組み手順(1)
· 基本方針～実施計画～営業・運営計画のプロセス
- 第10回 事業スキームの構築
· 上下分離、領域別分離、官民連携
- 第11回 MICEと産業観光
· 都市の産業育成への寄与、テクニカルビジットとMICE、ユニークベニューとしての活用
- 第12回 経営事例(1)交通インフラ施設の利活用
· 官民連携方式、他の観光施設との組み合わせ
- 第13回 経営事例(2)地場産業（地酒、ワイナリー）の事業化
· 立地条件により異なる対象客層と利用形態
- 第14回 富岡製糸場の活性化を考える
· 現状と課題をもとにした活性化策
- 第15回 講義の総括とQ&A

教科書・参考文献

教科書 teamsにて資料を配信、及び講義中に事例資料を配信する。

参考書 産業観光の手法 -企業は地域をどう活性化するか- (学芸出版社,産業観光推進会議,2,500円)
産業観光への取り組み ((公財)日本交通公社,2,000円)

授業外での学習

新聞、テレビ、インターネット等により産業観光に関する事例を積極的に収集すること

評価方法

出席と授業理解への意欲 (10%)、小レポート2回程度 (40%)、及び期末レポート(50%)

履修上の注意

周辺の代表的な産業観光資源である富岡製糸場・碓氷峠の鉄道遺産・桐生の織物工場群を事前に見ておくこと。

科目名 アーバンツーリズム
Title Theory of Urban Tourism
科目区分 観光政策発展科目

担当教員 担当教員との連絡方法
准教授 井手 拓郎 (イデ タクロウ)

E-Mail

配当年次 3	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

本科目の目的は、魅力的な都市づくりに将来貢献するため、「アーバンツーリズム（都市観光）」に関する基礎知識の習得と活用を図ることである。人が集中して居住する都市には、さまざまな観光対象が存在する。そのため、将来的に都市の観光政策に携わる場合、都市における観光とはどのようなものか、その効果や意義はどういったものか、アーバンツーリズム（都市観光）の実態を学習しておくことは有益であろう。

そこで本科目では、「アーバンツーリズム（都市観光）」の概念・構造・効果や各地の事例を把握し、その展開戦略を学んでいく。

達成目標

- (1) アーバンツーリズム（都市観光）の概念や構造・効果を理解する。
- (2) アーバンツーリズム（都市観光）の実態や展開戦略を理解する。

スケジュール

第1回	講義オリエンテーション（講義概要、スケジュール、評価方法、受講ルール等）
第2回	アーバンツーリズム（都市観光）の概念規定と構造：期待される効果
第3回	世界の国際観光の状況と都市の観光資源
第4回	事例（1）欧州
第5回	事例（2）大洋州
第6回	事例（3）北東アジア
第7回	事例（4）東南アジア / 履修者数によっては市街地の感性評価手法（キャプション評価法やSD法）解説
第8回	事例（5）北海道 / 履修者数によっては感性評価調査計画（1）（キャンパス内もしくは近隣調査）
第9回	事例（6）東北・中部 / 履修者数によっては感性評価調査計画（2）（キャンパス内もしくは近隣調査）
第10回	事例（7）関東 / 履修者数によっては感性評価調査実施（1）（キャンパス内もしくは近隣調査）
第11回	事例（8）近畿・四国 / 履修者数によっては感性評価調査実施（2）（キャンパス内もしくは近隣調査）
第12回	事例（9）中国・九州 / 履修者数によっては感性評価調査結果の分析（1）
第13回	アーバンツーリズム（都市観光）の展開戦略 / 履修者数によっては感性評価調査結果の分析（2）
第14回	中心市街地活性化と大学生 / 履修者数によっては感性評価調査結果の報告準備
第15回	まとめ / 履修者数によっては感性評価調査結果の報告会

教科書・参考文献

教科書 スクリーン投影のPowerPointスライドを中心に講義を進める。

参考書 淡野明彦（2004）『アーバンツーリズム - 都市観光論 -』古今書院
その他、参考となる書籍・論文・報告書等は、講義内で適宜紹介する。

授業外での学習

予習：講義中に次回講義に向けた予習を指示する。

復習：講義後は、自身のノートに当該回で学習したことをまとめておく。

感性評価手法を用いた調査：Covid-19の感染拡大の状況や履修者数を踏まえて、具体的な活動指示を行なう。

評価方法

講義後課題50%（小テストやリアクションペーパー）、学習成果報告50%（レポート／プレゼンテーション）
※Covid-19の影響による授業方法変更や履修者数による感性評価調査の実施有無などによって、変更する可能性がある。その場合は、その都度説明を行う。

履修上の注意

- (1) 感性評価調査は、履修者数が確定してから実施有無の判断や内容説明・指導を行う。講義計画に変更が生じた場合は、講義内で変更内容を説明する。
- (2) 遅刻や授業中の私語、スマートフォンなどの電子端末機器の使用は厳禁である。その他の受講ルールは第1回講義で説明する。そのため履修希望者は必ず第1回講義に出席すること。

科目名 エコツーリズム
Title Theory of Ecotourism
科目区分 観光政策発展科目

教授 片岡 美喜(カタオカ ミキ) 担当教員 担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 3	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 前期
-----------	------------	----------	------------

目的

エコツーリズムとは、主に（1）観光化によって地域に生じた環境問題や経済問題の是正を図る取組、（2）自然環境や歴史文化を体験しながら学ぶとともに、その保全についても、観光者・地域社会・観光業者などの関係各位が責任をもった行動をするという観光のあり方である。マス・ツーリズム（観光の大衆化）の発展により発生した環境的・社会的问题に対して、自然環境の保護と資金調達を両立させる手法のひとつとして注目されている。我が国においても、2008年にエコツーリズム推進法が成立され、地方行政による実践的重要性が高まっている。加えて、観光立国として観光誘客を推進するなかで、オーバーツーリズムをはじめとした観光にまつわる地域の諸課題への対応としても期待されるものである。

本講義では、エコツーリズム成立の背景や理念を学び、その現状や課題点を事例などを通じて学習する。

達成目標

本講義では、エコツーリズムの考え方を理解した上で、これから求められる観光像、地域像を受講生各自が形成することを目的とする。

スケジュール

第1回	講義ガイダンス	*	履修希望者は、必ず出席すること
第2回	エコツーリズムの定義、組織・地域等により異なる定義についての学習		
第3回	エコツーリズムの実践類型		
第4回	エコツーリズムの取り組み背景（1）		
第5回	エコツーリズムの取り組み背景（2）		
第6回	エコツーリズムの取り組み手法		
第7回	ケースメソッド①（1）エコツーリズムを取りあげたケースメソッドの実施		
第8回	ケースメソッド①（2）	同上	
第9回	グリーンツーリズム（1）	農山村地域と自然を活用した観光の沿革と実態を学習	
第10回	グリーンツーリズム（2）	同上	
第11回	日本のエコツーリズムの沿革と法整備（1）	国内でのこれまでの動向と推進法の内容、枠組について学ぶ	
第12回	日本のエコツーリズムの沿革と法整備（2）	同上	
第13回	エコツーリズム運営の実際（1）	エコツーリズム運営について実際のマニュアル等から考察する	
第14回	エコツーリズム運営の実際（2）	同上	
第15回	講義のまとめ		

教科書・参考文献

教科書
・基本的に配布するレジュメを教科書に充てる。
・必要な文献がある場合は、適宜指示する。

参考書
小方昌勝（2000）『国際観光とエコツーリズム』文理閣
吉田春生（2004）『エコツーリズムとマス・ツーリズム』原書房

授業外での学習

講義時間中に、講義時間外での学習について指示を行う。主には配布資料の読み込み、調べ学習などである。

評価方法

講義内課題（30%）、期末レポートもしくは期末試験（70%）を評価対象とする。

履修上の注意

・履修希望者は、必ず第1回の講義に出席すること。

科目名 観光開発関連法
Title Law of Tourism Development
科目区分 観光政策発展科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 大迫 道治 (オオサコ ミチハル)

E-Mail

配当年次	単位区分	単位数	開講時期
3	選択	2	後期

目的

観光コンサルタントの実務経験を活かして、観光開発に関する法律や計画についてその狙いや考え方について講義します。観光の対象とされる地域において、地域資源に新しい観光の価値を生み出したり、地域資源を活かして観光産業を興すために行われる観光開発は、自然環境や歴史文化、地域住民の暮らしに大きな影響を及ぼすところから、さまざまな省庁が制定した法律によって秩序ある開発が行われるように規制・誘導が行われています。しかし、高度経済成長期には地方での乱開発が問題となり、法律による規制の限界が浮き彫りになっています。本講義では、観光開発に対して中央省庁がどのような法律を運用してきたか、その対象となるエリアや分野による違いが分かるように横断的に法律を整理し、地方自治体が観光開発を適切に誘導していくための基本的な考え方や手法を学びます。

達成目標

- ①観光開発に関する各法律の目的及び理念、施行されてきた社会的な背景を理解する。
- ②観光開発を行う対象地・内容によって適用される法律が異なることや規制・誘導の限界を理解する。
- ③地方自治体で観光開発を適切に誘導するための手法や条例・要綱等の意義を理解する。

スケジュール

第1回	ガイダンス	講義の概要、使用資料の説明、試験・レポートの説明
第2回	国土開発関連法	国土利用計画法、国土総合開発法、国土形成計画法等
第3回	リゾート開発関連法	総合保養地域整備法の概要
第4回	市町村長期計画	まち・ひと・しごと創生法、長期総合計画
第5回	都市開発関連法(1)	都市計画法の概要
第6回	都市開発関連法(2)	まちづくり三法
第7回	観光開発と歴史文化	文化財、歴史的風土、歴史的町並み、世界遺産等
第8回	観光開発と自然環境	森林法、自然環境保全法、自然公園法等
第9回	観光開発と農地・林地	農山村及び農林業関連法
第10回	条件不利地域における観光開発	過疎、豪雪、半島、離島
第11回	観光立国関連法	観光立国推進基本法、観光圏
第12回	観光開発と景観	景観法、屋外広告物法等
第13回	観光開発と交通	交通政策基本法、道の駅
第14回	観光開発と条例	まちづくり条例、景観条例、土地都市開発条例等
第15回	講義の総括	

教科書・参考文献

教科書 講義時に資料を配布します。

参考書 国土交通六法、農林水産六法、環境六法

授業外での学習

講義で紹介した群馬県内の事例について、実際に現場まで足を運び、法律でどのように規制・誘導が行われているかを確認してください。

評価方法

講義の際に実施する小テストが30%、期末レポートが70%として評価します。

履修上の注意

特にありません。

科目名 地域振興論
Title Regional Promotion
科目区分 観光政策発展科目

教授 担当教員
西野 寿章(ニシノ トシアキ)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次 3	単位区分 選択	単位数 2	開講時期 後期
-----------	------------	----------	------------

目的

本講の目的は、過疎化が進む中、山村地域で取り組まれてきた「むらおこし」の本質を考察することにある。地域開発、地域振興、地域づくりなど、地域の振興に関わる用語が存在しているが、そもそも、これらの取り組みは何故に展開してきたのであろうか。また、地域の振興に様々な地域や経済団体などが取り組んできたが、長く継続している事例もあれば、一定の期間を経て活動が中止されている事例もある。いわゆる補助金行政として批判されるのは後者の例であるが、長期間継続している事例から、その継続の条件を析出することができれば、地域づくりの原理が見えてくる。本講では、地域づくりに関わる理論とその理論が登場した背景を解説しつつ、地域づくりの本質を考えることとする。

達成目標

地域づくりの本質を、理論や事例分析から考察し、理解することを講義の目標とする。日本のむらおこしの中には、取り組みから半世紀が経過しようとしている事例がある。現代の地域づくりは、一過性のイベントに陥りがちな側面もある。半世紀近く取り組まれてきたむらおこしの事例などから、地域で生きることの重要性も学び取ってもらいたい。

スケジュール

- | | |
|------|---|
| 第1回 | プロローグ 地方都市、農山村の地域問題を考える。 |
| 第2回 | 都市と山村の対照性 本講で取り上げる山村の現代における位置づけを解説する。 |
| 第3回 | 過疎山村の形成過程 過疎山村の形成メカニズムを解説する。 |
| 第4回 | 山村の地域経済 個人所得、産業構造から山村経済の構造を解説する。 |
| 第5回 | 社会的空白地域と限界集落論 山村の近未来を予測した研究を紹介し、妥当性を考える。 |
| 第6回 | 地域振興理論(1) 地域主義論の解説 |
| 第7回 | 地域振興理論(2) 内発的発展論の解説 |
| 第8回 | 地域振興理論(3) むらおこしと一村一品運動の解説 |
| 第9回 | 地域振興政策と問題点 むらおこしに関わる政策展開と問題点を解説する |
| 第10回 | 山村振興事例(1) 行政主導で進められてきた振興事例を紹介する |
| 第11回 | 山村振興事例(2) 住民主体で進められてきたむらおこしの事例を解説する |
| 第12回 | 地域振興の本質を考える 以上から地域振興原理を検討する |
| 第13回 | 入会林野と地域コミュニティ 入会林野史と入会林野がもたらしてきた地域機能を検討する |
| 第14回 | マッキー・バーのコミュニティ論 マッキー・バーが言う「共通の関心」について検討する |
| 第15回 | まとめ 地域振興の本質と現実を考える |

教科書・参考文献

教科書 特に使用しない。

参考書 講義中に紹介する。

授業外での学習

シラバスの内容をふまえ、関連論文や文献を積極的に読んで予習したうえで授業に出席することが望ましい。

評価方法

平常点(30点)、期末試験(70点)の総合評価によって評価する。毎回、小レポートを課し、その評価を平常点とする。

履修上の注意

出席調査は、毎回行う。授業回数の2/3以上出席しないと試験を受けることはできない。

科目名 外国史
Title History of Foreign Countries
科目区分 観光政策発展科目

担当教員 担当教員との連絡方法
非常勤講師 竹内 洋介 (タケウチ ヨウスケ)

E-Mail

配当年次 2	単位区分	単位数 2	開講時期 前期
--------	------	-------	---------

目的

現代の「アジア」という地域がどのように形成されてきたのか、グローバルな現代社会において存在の比重を高める中国（中華世界）とイスラーム世界を中心に、その歴史的過程を明らかにしていく。時代的には古代から近代までを包括的に扱い、アジア間ににおける諸交流を概観するとともに、15世紀以降のヨーロッパ世界の拡大が西アジア（イスラーム世界）・東アジア（中華世界）にどのような影響を与えていったのか、幾つかの事例を挙げて検討していく。

達成目標

1. アジアの多様な文化や歴史の連續性を広い視野から考察することによって、歴史的な思考能力を養う。
2. 歴史的な事象がなぜ勃発し、それがどのような結果をもたらしたのか、様々な資料や統計と向き合い自ら思考・分析することができる。
3. 中学校社会、高等学校地理・歴史の教員として、生徒を指導するに必要なアジアの歴史に関する知識を獲得

スケジュール

- | | |
|------|--------------------------------------|
| 第1回 | ガイダンス：「東洋」とは何か～アジアの地理的概観～ |
| 第2回 | 中華世界の形成と周縁地域I～東西交渉の開始～ |
| 第3回 | 西アジア世界の誕生～オリエントとペルシア～ |
| 第4回 | 南アジア世界の成立～イスラーム化以前の南アジア～ |
| 第5回 | イスラーム世界の誕生と拡大 |
| 第6回 | 中華世界の形成と周縁地域II～大唐帝国と東アジア～ |
| 第7回 | 中華世界の形成と周縁地域III～シルクロードと遊牧世界～ |
| 第8回 | 中華世界の形成と周縁地域IV～動乱の東部ユーラシア～ |
| 第9回 | モンゴル帝国の衝撃～帝国の形成と分裂～ |
| 第10回 | 東西世界の衝突～十字軍とレコンキスタ～ |
| 第11回 | ポストモンゴル時代のユーラシアI～西方世界の再編～ |
| 第12回 | ポストモンゴル時代のユーラシアII～中華世界と東ヨーロッパ世界の接触～ |
| 第13回 | ポストモンゴル時代のユーラシアIII～中華世界と西ヨーロッパ世界の接触～ |
| 第14回 | 「帝国」の終焉I～東アジア世界秩序への挑戦～ |
| 第15回 | 「帝国」の終焉II～西アジア世界秩序の解体～ |

教科書・参考文献

教科書 使用しません。適宜レジュメおよび資料を配付します。

参考書 各回の講義において、参考文献を紹介しますが、全体的な参考書として、講談社の『興亡の世界史』シリーズ（のち講談社学術文庫から刊行）のみ挙げておきます。

授業外での学習

参考書や講義中に示す書籍など、各回に関連する概説書を読み、各地域・時代の背景を確認して講義に臨んでほしい。とくに、対象となる地域が一体どのような地域性を持っているのかを確認しておくことが望ましい。また、講義内容を整理し、問題点・疑問点などをまとめ、適宜解決できること。

評価方法

高崎経済大学の成績評価基準に基づき、数回のリアクションペーパー提出（20%）と学期末の定期試験（80%）の成績を総合して評価する。なお、毎回の出席確認を行い、特段の理由が無く3分の1以上欠席した場合には、成績評価は行いません。

履修上の注意

とくにありませんが、他の授業と同様に、授業中の私語やスマートフォンの使用などは止めて下さい。
歴史学に興味のある方の受講を歓迎します。

科目名 地誌
Title Topography
科目区分 観光政策発展科目

担当教員
非常勤講師 堤 純 (ツツミ ジュン)

担当教員との連絡方法

E-Mail

配当年次
2

単位区分
選択

単位数
2

開講時期
後期

目的

世界で最も美しく暮らしがやすい国の一つといわれるオーストラリア。「温暖な気候に恵まれ、豊富な農産・鉱物資源に恵まれ、陽気でフレンドリーなオージーの暮らす大らかで豊かな国」という印象の強いオーストラリアだが、1970年代中盤までは、白豪主義を掲げ、アジア系移民を受け付けない、全くの「別人」だった。そのオーストラリアが、日本と「相思相愛」の関係になるまでの道は決して平坦ではなかった。この授業では、自然条件、歴史、文化的背景、経済状況、そして国際社会における役割など多様な視点から地誌学（地域地理学）的に、オーストラリアの特徴を理解することを目的とする。

達成目標

1. オーストラリアの自然、歴史、文化的な特徴を説明できる。
2. オーストラリア建国時と今日の外交上のスタンスの変化を説明できる。
3. オーストラリアの都市社会が抱える諸問題とその解決策について一例を挙げて説明できる。

スケジュール

第1回	オリエンテーション -オーストラリアとはどんな国か?-
第2回	地誌学とは何か（地誌学から地域を見る見方・捉え方）
第3回	地誌学の教授法（授業の組み立て方）
第4回	自然環境から地域を見る見方①（多様な気候条件と固有種の例）
第5回	自然環境から地域を見る見方②（多様な地質・地形と集落立地の例）
第6回	文化景観から地域を見る見方（先住民文化の例）
第7回	政治経済から地域を見る見方（国の発展と国際関係論の例）
第8回	貿易と地域の結びつきから地域を見る見方（アジア太平洋地域の結びつきの例）
第9回	オーストラリアの農牧業 -もはや「羊の背中にのった国」ではない?-
第10回	オーストラリアの都市社会①（鉄鉱山へのFIFO「飛行機通勤」で発展するバース）
第11回	オーストラリアの都市社会②（オーストラリアのサンベルトーブリスベンとゴールドコースト）
第12回	オーストラリアの都市社会③（非ステレオタイプな移民が創るアデレード）
第13回	オーストラリアの都市社会④（グローバル都市・シドニー）
第14回	オーストラリアの都市社会⑤（伝統と最新が調和する都市・メルボルン）
第15回	Lovely Aussie Lifestyle (wagyu, バーベキュー, LOHASな休日, LGBT観光など)

教科書・参考文献

教科書 資料（パワーポイントの抜粋）を配布する。

参考書 堤純編著『変貌する現代オーストラリアの都市社会』筑波大学出版会（ISBN-4904074467），竹田いさみ『物語オーストラリアの歴史：多文化ミドルパワーの実験』中公新書（ISBN-9784121015471）

授業外での学習

毎回の授業で用いる教材（パワーポイント資料等）をネット上で公開する（公開元のURLは初回授業時にアナウンスする）。次回授業においてどんなトピックスが話されるかについて、関連する情報を各自で事前に収集してから授業に臨むこと。

評価方法

筆記試験での評価分（50%）と、授業終了時に記入する毎回のコメントシート（小テスト）の記述内容（50%）を合算して評価します。

欠席回数が高崎経済大学の基準回数以上の場合は、学期末試験の受験資格が無くなるので要注意のこと。

履修上の注意

毎回の授業で用いる教材（パワーポイント資料等）をネット上で公開する。授業時間中にネット接続して閲覧することは可とするが、紙媒体でじっくり詳細を確認したい者は各自で事前にダウンロードのこと。なお、出席記録の不正（いわゆる「ビ逃げ」）については厳正に対処するので注意のこと。